

平成30年度行政事業レビューシート (内閣府)

事業名	交通環境イノベーション事業推進に必要な経費			担当部局庁	沖縄振興局	作成責任者	
事業開始年度	平成29年度	事業終了(予定)年度	平成30年度	担当課室	参事官(振興第一担当)	宮国 永明	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な条項も記載)	沖縄振興特別措置法			関係する計画、通知等	沖縄振興基本方針(平成24年5月内閣総理大臣決定)		
主要政策・施策	沖縄振興			主要経費	その他の事項経費		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	沖縄の深刻な交通渋滞への取組の一環として、自動車に過度に依存しない、住民にも観光客にも利用しやすかつ魅力的な交通環境の創造に向け、自動運転などの最先端技術も活用した戦略的な展開を図ることを目的とする。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	①ビッグデータによる交通環境把握および対策手法検討調査、②IoTによる旅行者向け情報提供サービス検討調査、③自動運転導入調査、④観光競争力強化のための魅力的な景観創出検討調査を実施する。						
実施方法	委託・請負						
予算額・執行額 (単位:百万円)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度要求
	予算 の 状 況	当初予算	-	-	300	300	0
		補正予算	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-
		予備費等	-	-	-	-	-
		計	0	0	300	300	0
	執行額				291.6		
	執行率(%)		-	-	97%		
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)		-	-	97%		
平成30・31年度 予算内訳 (単位:百万円)		歳出予算目	30年度当初予算	31年度要求	主な増減理由		
		交通環境等改善調査委託費	300	0	30年度事業終了		
		計	300	0			

定量的な成果目標の達成が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由及び定量的な成果目標	定量的な目標が設定できない理由		定性的な成果目標と27～29年度の達成状況・実績							
	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標	実績	27年度	28年度	29年度	中間目標年度	目標最終年度	30年度	31年度
	自動車に過度に依存しない、住民にも観光客にも利用しやすかつ魅力的な交通環境の創造に向けた課題の整理	自動車に過度に依存しない、住民にも観光客にも利用しやすかつ魅力的な交通環境の創造に向けた課題の整理	調査の実施及びとりまとめ報告書の件数	件	-	-	6	-	-	-	6
				目標値	-	-	4	-	-	-	6
				達成度	%	-	-	100	-	-	-
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標			単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込	31年度活動見込		
	調査の実施			活動実績	件	-	-	6	-	-	
		当初見込み	件	-	-	4	6	-			
単位当たりコスト	算出根拠			単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込			
	自動車に過度に依存しない、住民にも観光客にも利用しやすかつ魅力的な交通環境の創造に向けた課題を整理するための調査費用から単位当たりコストを算出 X: 執行額/Y: 調査数			単位当たりコスト	百万円	-	-	48.7	50		
		計算式	/	-	-	292/6	執行見込額(300百万円)÷調査の実施件数(6)				

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	沖縄の深刻な交通渋滞への取組の一環として、自動車に過度に依存しない、住民にも観光客にも利用しやすかつ魅力的な交通環境の創造に向け、自動運転などの最先端技術も活用した戦略的な展開を図ることを目的とするものであり、国民や社会のニーズは高い。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本調査は、最先端技術も活用した社会実験調査であるため全国的な知見も踏まえ実施する必要があり、また、民間事業者の自発的な取り組みに委ねる性質のものでもなかったため、国が率先して実施する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	沖縄の深刻な交通渋滞への取組の一環として、自動車に過度に依存しない、住民にも観光客にも利用しやすかつ魅力的な交通環境の創造に向け、自動運転などの最先端技術も活用した戦略的な展開を図ることを目的とするものであり、優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	一般競争・指名競争(最低価格)契約方式による支出先の選定を行っており、競争性と公正性を確保し、経費の削減に努めている。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	なお、本事業においては、一者応札・一者応募となったものが1件あったが、ヒアリングによりその原因を調査している。
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	競争入札により業者を選定し、経費の削減に努めている。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	事業目的に則し、合理的なものとなっている。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	交通環境等の改善に向けた課題を整理するため、調査の実施及びとりまとめ報告書の作成を行っている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	交通環境等の改善に向けた課題を整理するためという目的に則した調査を実施している。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	調査実施内容はHP等により広く周知され活用されている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	所管府省名	事業番号	事業名

点検・改善結果	点検結果	平成29年度は、①ビッグデータによる交通環境把握および対策手法検討調査、②IoTによる旅行者向け情報提供サービス検討調査、③自動運転導入調査、④観光競争力強化のための魅力的な景観創出検討調査を実施した。支出先の選定に当たっては、競争性、透明性及び公平性の確保を図る観点から、企画競争方式、総合評価方式により公募を行ったうえで契約を締結している。
	改善の方向性	引き続き、競争性、透明性及び公平性の観点から委託業務を発注し、国費投入の必要性、事業の効率性、有効性等を検証しながら事業を進めていく。

外部有識者の所見

事業者Aとの関係で随意契約となった経緯は何か。本事業の想定する役務を提供可能な事業者は相当数、存在しており、入札方法に問題がなかったのか、精査されたい。

行政事業レビュー推進チームの所見

現状通り	外部有識者の所見を踏まえ、調達方法を改めて検証するなど、より一層事業の有効性・効率性・成果について適切かつ的確に検証するべき。
------	---

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

現状通り	所見を踏まえ、適正な事業の実施、予算の執行に努める。
------	----------------------------

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度 -	平成23年度 -	平成24年度 -	平成25年度 -
平成26年度 -	平成27年度 -	平成28年度 -	
平成29年度	内閣府 (新29 - 0012)		

※平成29年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

```

graph TD
    Gov["内閣府  
300百万円  
(事業の企画立案)"] --> A["A: 民間企業  
22百万円  
(自動運転導入調査の実施等)"]
    Gov --> B["B: 民間企業等  
270百万円  
(ビッグデータによる交通環境把握および対策手法検討調査等の実施等)"]
    Gov --> Agency["沖縄総合事務局  
278百万円  
(事業の企画立案)"]
    Agency --> B
  
```

